

人間文化研究機構国文学研究資料館

令和5（2023）年度第3回運営会議 議事要旨

- 【日 時】 令和5（2023）年11月2日（木） 15：30～17：00
- 【場 所】 国文学研究資料館 大会議室
- 【出席者】 入口（議長）、海野、大隅、大山、落合、川平、神作、倉員、齋藤、佐々木（副議長）、高田、高埜、張、西村、ヒューイ、藤實、山本（和）、山本（聡）の各委員
- 【欠席者】 安藤、大谷、久富木原、山地の各委員
- 【陪席者】 渡部館長（Zoom）、島崎管理部長、笠原総務課長、姫野財務課長、片岡学術情報課長、その他関係職員

議事に先立ち、渡部館長から挨拶があった。

続いて、笠原総務課長から、会議の定足数について、運営会議委員22名のうち、外国出張による欠席者は0名で、過半数12名以上となり、18名出席しているため定足数を満たしている旨の報告があった。

- 【運営会議議事要旨確認（第1回6月30日及び第2回7月27日～8月1日＜書面審議＞）】
原案のとおり了承された。

【審議事項】

- 1 研究教育職員等の人事について（資料1）
神作委員から、資料1－1及び取扱注意資料に基づき、令和6（2024）年1月1日付けの人文情報学を専門とする准教授1名の採用について、候補者の経歴や選考過程等の説明があった。可否投票の結果、採用が了承された。
続いて神作委員から、資料1－2及び取扱注意資料に基づき、令和6（2024）年4月1日付けの近代文学を専門とする准教授1名の採用について、候補者の経歴や選考過程等の説明があった。可否投票の結果、採用が了承された。
続いて神作委員から、資料1－3及び取扱注意資料に基づき、令和6（2024）年4月1日付けの日本文学の研究を行い、あわせて国際関連の業務を担当する助教1名の採用について、候補者の経歴や選考過程等の説明があった。可否投票の結果、採用が了承された。なお、本件の採用候補者については、現職との関係上、本会議での了承後に機構長による承認を得る必要があるため、機構長への協議手続を進めるとの補足説明があった。

【報告事項】

- 1 特任研究員の人事について（資料2）
入口議長から、資料2に基づき、令和6（2024）年4月1日付けで2名の特任准教授及び1名の特任助教を採用予定である旨の報告があった。
- 2 大規模学術フロンティア促進事業の「事業移行評価」（報告）について（資料3）
山本（和）委員から、資料3に基づき、現行計画「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」から後継計画「データ駆動による課題解決型人文学の創成」への事業移行評価

が実施され、評価結果が公表された旨の報告があった。

入口議長から、後継計画の円滑な推進のため、現在、改組の検討を行っており、次回の本会議において説明予定である旨の補足説明があった。

川平委員から、後継計画におけるOCRによるテキストデータ化について、どのようなシステム（OCR）を使用しているのか、また、精度についての質問があり、海野委員から、国立国会図書館のOCRを使用した試験を進めており、精度は資料により偏りが大きい、精度が高いものだと90%程度である。今後はテキストデータを仮公開し、寄せられた意見などを参考に修正を加えたものを本公開していくことを考えているとの回答があった。

3 令和6年度概算要求について

（資料4）

姫野財務課長から、資料4に基づき、共通政策課題分については、「データ駆動による課題解決型人文学の創成」として約3.3億円を要求していること、教育研究組織改革分については、「古典籍データ駆動研究センター」の設置（継続分）として今年度と同額（約8千万円）を要求していること、及び12月下旬に文部科学省より予算額の内示が行われる予定であることの報告があった。

4 提言「未来の学術振興構想（2023年版）」について

（資料5）

神作委員から、資料5に基づき、当館から応募した2件とも「未来の学術振興構想（2023年版）」に掲載された旨の報告があった。

また、未来の学術振興構想小委員会委員でもある倉員委員から、グランドビジョン（一覧）に「社会」や「歴史」というワードは見受けられるが、「文学」というワードは無く厳しい状況と感じられるが、ビジョンの一つとして掲載されていることは一定の評価を得たと言えるとの意見があった。

5 その他

（1）令和5年度の催し物について

（資料6）

入口議長から、資料6に基づき、令和5（2023）年度催し物について報告があった。

最後に、入口議長から、令和5年秋の褒章にて、館長である渡部泰明氏が紫綬褒章を受章されることとなったこと、及び11月22日（水）に受章記念祝賀会を開催する旨の報告があった。

【当館へのご意見等】

川平委員から、閲覧室の開室日について、現在は水曜日が閉室となっているが、遠方の研究者や学生などの利便性の観点から平日は毎日開室していることが望ましいとの意見があり、海野委員から、人員配置や予算などの課題があるが館内で検討していきたい旨の回答があった。

大隅委員から、本日の人事関係書類に、性別などの選考に関係ない事項の記載が見受けられたが、ダイバーシティの観点から見直すべきではないかとの意見があり、入口議長から、御意見を参考にして次回以降見直したい旨の回答があった。

以上